

選挙のための 「希望の党」



言葉で動く小池。

石原慎太郎をたたく小池。

自分で決めなければいけない時に優柔不断だった小池。

豊洲移転、築地閉鎖ができずに「豊洲に移転」「築地に食のテーマパーク」の小池。

政治家としての決断ができない小池。

一握りのお仲間たちだけで都議会を通さずに独断専行で豊洲移転延期をしてきた小池。

「安全であっても安心ではない」と『世迷い言』をいう小池。

都知事になっても都知事らしいお仕事は何もせず、ただ引っ掻き回しただけの小池。

ズバズバと都民の期待どおりの大改革を断行できるリーダーのはずだったが『都民にとっては期待外れ』。

選挙の賞味期限は1～2か月の小池。

「民主党」から「民進党」に名前を変えて 「民進党」は 【左巻き】と【右巻き】が 同居していた党。

自民党の安倍晋三首相が5月3日に改憲を提案、その辺からいろいろと波風が起きてくる。

現在、周りを見渡すと「改憲勢力」が増えてきた。

自民党はもっと議席を増やしたい。できれば公明党の足かせを外したいからだ。

自民党が結党以来めざしてきたことが「憲法改正」であるならば、小池百合子の『希



安倍晋三首相

望の党』も「改憲」で、『維新の会』も「改憲」です。

なんとなく『憲法改正』がマジョリティを得てきたように思う。

大義無き解散総選挙は悪いのか？

なぜ、自民党の安倍晋三総理が「解散総選挙」をいま行うのか？

「解散総選挙」に打って出るのは「選挙に勝てそうだ」というときにやるのが当然のこと。自民党総理総裁が「いま、選挙をやれば自民党が勝てる」と思っているからだ。

野党の「左巻き」の皆さんは「大義無き解散」と批難しているが、いま「選挙をやれば負ける」からのプーイングなのだ。

不見識にも消費税増税ありきの発言

だから、安倍晋三首相は敢えて「選挙には絶対禁句の消費税増税」に言及し、踏み込んだ。

「増税を凍結する」のではなく、増税分を教育費に使いたいなどと馬鹿なことを言い出したのだ。

これは「民進党」前原 誠司代表のパクリではないのか？

これを聞いたときは、安倍晋三首相も

ここまでのボンボンだったのか？と見限るところだった。

財務省が怖いのなら総理総裁の器ではない。

このようなテイタラクでは国民に「森友、加計問題」を慌てて隠しているような印象を与えてしまう。

だいたい教育費の場合は「国債を発行して日本銀行に買い取らせる」のが通常の処理方法なのだ。

消費税うんぬんの出る幕ではない。

そんなアホなことをわざわざ言うのは、財務省に鼻葉を効かされている石破茂氏か野田聖子氏へのリップサービスのつもりなのだろう。

こういうところに長期政権化する安倍晋三首相の驕り高ぶり、が見え隠れする。



「衆議院を解散する」

内閣総理大臣の最も大事な仕事は 国民の生命を守ること

毎日のように、ドナルド・トランプ大統領と国際電話で話しているのだから、アメリカ軍が「北朝鮮を攻撃するのは12月」らしいことくらい見当はつく。

少なくとも、中国の共産党大会が開かれる10月18日まではアメリカのトランプ大統領は北朝鮮に戦争を仕掛けない。毎日の遠距離国際電話でシンゾー・アベはドナルド・トランプが12月のキンキンに寒い時期に北朝鮮攻撃をすることを知らされた。

その最後通牒を伝えるために11月の初旬にドナルド・トランプ大統領は日本を訪れ、続いて中国で習近平国家主席と交渉する。表向きは「北朝鮮への圧力と制裁を加えさせる」ためだが真実は違う。

中国訪問前にシンゾー・アベはトランプ大統領から意見を訊かれるだろう。代々続く侍の家系安倍氏は肝を据えて「極めて重要な返事」をしなければならない。



ドナルド・トランプ大統領

だからこそ安倍晋三首相はそれまでに「解散総選挙」「組閣」を終えておきたいのだと、なぜ国民に訴えないのか？不思議だ。

日本国民の生命の安全以上に日本の総理大臣にとって重要な【大義などあろうはずがない】。日本にミサイルが着弾すれば消費税など吹っ飛んでしまう。日本国民の生命を守るとは国家の最重要課題だ。

アメリカはいざとなれば、北朝鮮どころか中国さえ相手にするつもり、と聞く。

安倍晋三首相は 小池百合子東京都知事に 命じて避難訓練をさせろ

ワイズは先月号でも書いたが、「Jアラート」が鳴っても5分やそこらで逃げ込む「核シェルター」が日本にはほとんどない。70年前の防空壕に比べてもお寒い限りだ。窪地や物陰に隠れて丸く身をかかめ、頭を守る姿勢をとることしかできないのか。



北朝鮮の水爆が着弾したら？

北朝鮮の核ミサイルは 東京・名古屋・大阪の 人口密集地を狙っている

人口密集地にミサイルを打ち込めば甚大な被害を与えることができる。北朝鮮は効率的に「日本人」の殺戮ができるのだ。

残忍な方法で自国民を恐怖支配している金王朝の金正恩「刈上げクン」が遠慮などするわけがない。東京・名古屋・大阪の人口密集地が標的である。

小池百合子東京都知事は「北朝鮮の核ミサイル」攻撃を避ける「避難訓練」をやったのだろうか？全然やっていない。「それでも都知事か？」といいなくなるが自分の総理大臣になりたいという野望のために国民の命を足げにする小池百合子は石原慎太郎先生のいう『大年増の厚化粧』そのものだ。

日本を取り巻く 国際情勢の変化

国際情勢からみると最近の変化は非常に明確だ。

- ◆「北朝鮮の脅威」 ◆「中国の野望」
- ◆「アメリカの対日政策の変容」

日本を取り巻く国際情勢は大きく変わってきている。

これに対応してゆくためには今の憲法ではどうしても難しい。

「憲法改正」に踏み出しながら、「国防力を強化」することがどうしても必要になる。とりあえず国防費は現在のGDP比1%を2%に上げよう。

民進党は自民党の第一時安倍政権後に反省して第二次安倍政権となったような出直しをしていない。

それが、現在の「小池新党への身売り」につながっている。短いとは言え一度は政権を担った民主党・民進党が「解党的出直し」どころか「自滅」である。

「名を捨てて実を取る」ということだが小池新党『希望の党』に政策的しぼりを容認して、選別してもらおう。

民進党に左翼的議員を残して他は「希望の党」にアプローチしている。つまり、政策理念を中心にして明確になってきた。ただし、民進党は選挙に勝てない、時間がない、ドタバタでしっかり政策を議論していない。

「自民党」の政策と「希望の党」の政策は、どこがどのように違うのか？国民にわからなくなってしまった。

これでは自民党が票田にしている保守的な浮動票が小池「希望の党」に流れる可能性がある。

民進党の代表戦の時に前原氏が財政再建よりは「消費税増税分」を社会保障にあてる、という前原誠司民進党代表の政

策の一部を安倍晋三総理は勝手にパクってしまった。

自民党の保守勢力としてのアイデンティティーに問題はないのか。

《公明党に遠慮して「憲法改正」をやらずに9条を残したまま自衛隊を加憲して明記する》

北朝鮮核ミサイルでひっ迫しているときに、相変わらず「自衛隊は戦力ではなく、警察もどきの組織」ですむのだろうか。

まともな保守から見れば、なにか、自民党のほうがいい加減で、中山恭子（日本のこころ）・中山成彬元文科省大臣ご夫妻が入党した「希望の党」。共産党が「スーパー右翼」とレッテルを貼る「中山ご夫妻」を見れば自民党より「希望の党」のほうが保守色が濃く見えるかもしれない。

「希望の党」は絶望の党

民進党への政党助成金120～150億円、連合の票680万票をお土産にしますから、民進党の代表、前原誠司氏は「希望の党」で「そっくり全部引き受けてください」と話したつもりだった。

前原誠司氏は「小池百合子氏が選別仕分けをしてくれるだろう」と考えていたのか。それとも、この際「左巻きは切ってしまう」と思ったのかどうかは定かではない。

ただし、民進党の衆参両院会議のテレビ放送を見てみると『満場一致』で「希望の党」への参加を決定している。

そこに小池百合子東京都知事が「ジョーズ」よろしくパクっと食らいつく。「ただし、政策が一致する人達だけですよ」と釘を刺す。これで絶望する人が増えてくる。

最初は前原代表のほうから「希望の党」へ「丸ごと入党」を持ち掛けた。

その方針にのっとなって前原代表は民進党の皆さんを全員集めて民進党では公認しないので「希望の党」に入党してから「希望の党」から公認を取ってくださいと話している。この時点で党内には誰一人、反対者はいない。

「全会一致」「満場一致」で「丸ごと入党」のはずだった民進党。

前原誠司代表が「甘ちゃん」なのか、民進党の議員たちが「世間知らず」なのか。

前原代表の「希望の党」へ「丸ごと入党プラン」に何ら疑いもなく乗ってしまう。小池百合子東京都知事は都知事になって約1年半にわたり何も仕事をしていない。



民進党 前原誠司代表

「選挙詐欺師の小池百合子」の口車に乗って、政党の「お引越し」を嬉々として受け入れる民進党。

「安保法制反対!」「戦争法案!安倍止めろ!!」と国会の周辺でデモしてお祭り騒ぎをしていた民進党の先生方、「2017年9月1日」まで「安保法制反対!」のプラカードを下ろさなかった民進党の先生方はどうして「安保法制賛成」に変わったのか?その説明を国民にする必要がある。

小池百合子(『大年増の厚化粧』)は『日本核武装すべし』という持論を持っている。そんなことを知らない民進党の先生方ではあるまい。

最初は民進党の皆さんは「全会一致」で『希望の党』へ行くといった。

そこへ『大年増の厚化粧』がはっきりしたことを言わないでアヤフヤにしながらいる。つまり、条件を言わなかった。

だから、「安保法制は反対ですか」と聞かれて反対といえば「排除されてしまう」、「入党拒否」されるのだ。

前原誠司代表は『大年増の厚化粧』に条件を聞かなかった。

マア、はぐらかされたというのが正解。

政治家になるためには「3ばん」が必要といわれている。

『大年増の厚化粧』は「看板」を。

「地盤」は連合の680万票、民進党。

「現金の入った鞆(カバン)」「(120~150億円)民進党。

「希望の党」にないのは680万の組織票と120~150億円の現金である。

それと、国会議員として活動していたキャリアだろう。素人新人の寄せ集めでは新しい政党は活躍ができない。左巻きじゃない民進党議員もリクルートしたい小池百合子都知事だが、はたしてどうか。

「希望の党」立候補者の選定基準によれば安全保障・憲法観といった根幹部分で一致していくことが政党を構成する構成員として必要最低限のこと(一致しない場合は)排除いたします。

「希望の党」憲法改正について 小池百合子氏は2017年9月28日

- ◆常に9条に的が絞れてそこで神学論争が何十年と続いてきた。
- ◆例えば8章の地方に関する部分などが極めて手薄
- ◆9条のイエスorノーだけでなく、より多くを健全に議論していく素地が必要
- ◆護憲そのもの憲法改正そのものが目的化することはあってはならないといっています。

これはイージーな意見。9条だけでなく幅広く訴えていく。

行き場を失った枝野幸男氏は「立憲民主党」をつくった。

共産党と社民党が「立憲民主党」を温かく迎え入れた。

メデタシ、メデタシ。